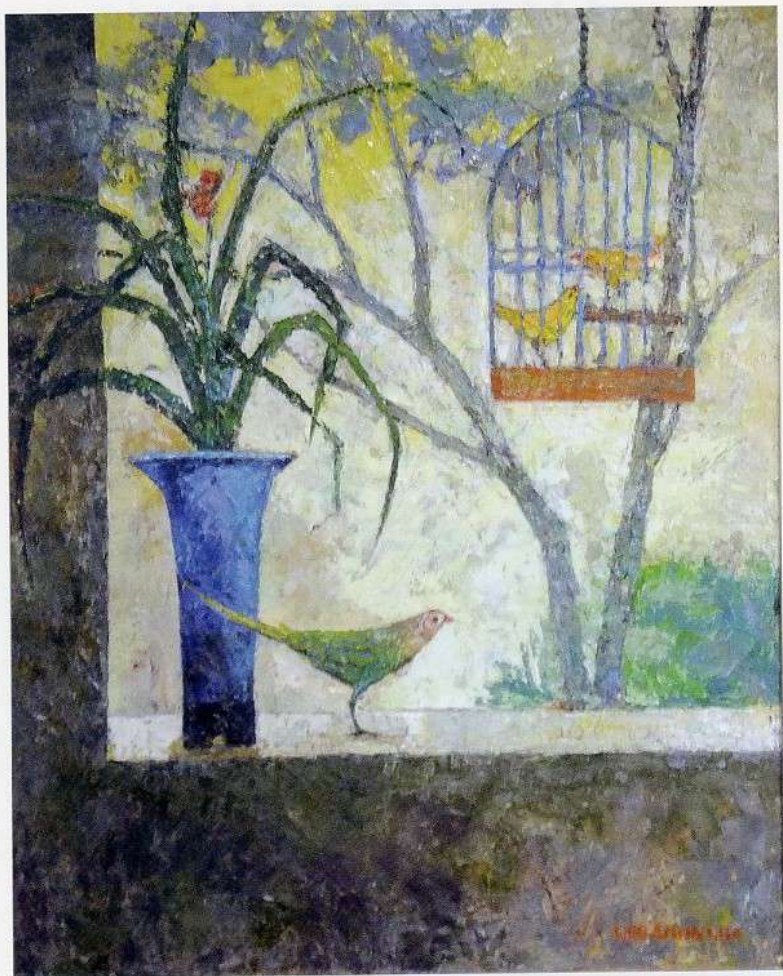


ヒロシマ

HIROSHIMA



2013(上)

ペ

ン

HIROSHIMA

2013(上)



広島ペンクラブ



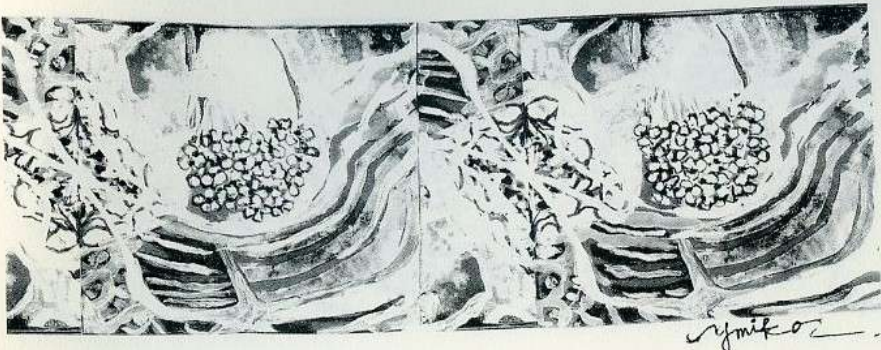
表紙●河本尚子 題字●大木 茂 目次カット●上田由美子
扉●江川政昭 ギャラリー●上田由美子／吉岡小百合／赤松和彦／新本 稔
表三●大島邦夫

《目次》

ペンの旅 (中国)	11
ペンの旅 (岡山)	13
赤松 和彦……残したかった広島風景	16
秋山 光智……「平成元年の津波警報」	17
足立 柳子……生き方 (逝き方)	18
天瀬 裕康……癒しのロボット	19
荒井 輝雄……幸福 <small>しあわせ</small> を売る男あり そのお代は？	20
有田 正希……我がふるさととは桃源郷	21
石井 康隆……見つけた祖先 (墓)	22
板倉 昭子…… 遺稿 ワヒバ砂漠	23
伊藤 秀輔……ミュンヘンの宿	24
稲田 公子……山伏の里	25
井上 哲一……『方丈記』に思う事	26
今泉ただし……河豚解禁のこと	27
今田 鷗蹕……今田城跡を訪う	28
上田みどり……逼迫するエネルギー情勢	29



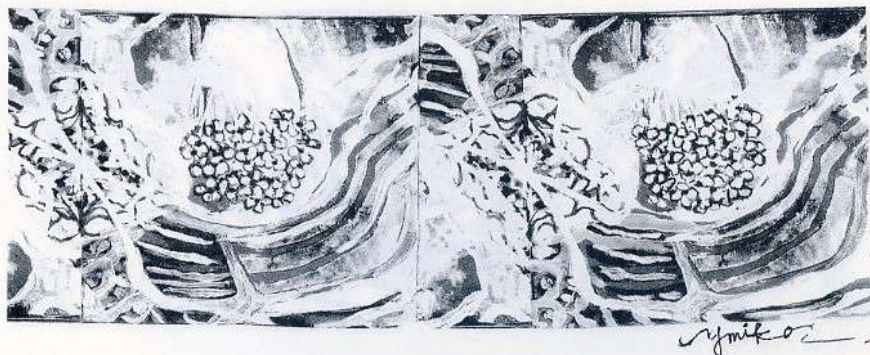
江川 政昭	…… ニューヨーク、フリックコレクションを訪ねて	30
袁 業	…… 私的五輪観戦	31
大島 邦夫	…… 中国の昔の若者達	32
大谷 育平	…… 笑話	33
大谷美奈子	…… 熱中症	34
小笠 邦久	…… 旅路の果て、硫黄島、その一	35
小野 文孝	…… 彼の噂	36
筧 義之	…… 神がみの風景	37
梶矢 文昭	…… 原爆・広島の油断と新潟の英断	38
亀井 一夫	…… 古希人の思うこと	39
川堀 耕平	…… 曲阜の日本軍	40
河本 尚子	…… 『複合民族』——日本考	41
北川 建次	…… 広島の繁華街	42
木村 進匡	…… 電話に思う	43
久保田靖子	…… 病院の中庭	44
久村 敬夫	…… 名作・傑作で青春時代を	45
兒玉 昭人	…… 阿波の人形浄瑠璃に因んで	46
兒玉 光禎	…… 真つ赤な彼岸花	47
小島 哲	…… 恩師 川村毅先生を偲んで (そのII)	48
佐々木英夫	…… ドーピングに思う	49
生和 秀敏	…… 大学の使命	50



世木田寛子……………曆と相撲……………	51
高橋 昭三……………遍路杖……………	52
高橋 博暢……………高齢化時代を迎へて……………	53
タケタヒロコ……………幻のワイン……………	54
大門 千夏…………… 特別寄稿 マリタカ……………	55
紫門 明子…………… 特別寄稿 ポルトガル語で日本文学……………	56
田中 泉……………わが師の恩……………	57
田中 康夫……………旅ゆけば……(18) かわいく愛しい港町……………	58
土井田 泰……………マスコミの自由(という名の嘘)……………	59
富沢 佐一……………神様を見た話……………	60
豊嶋 睦……………一家団欒の夕べ……………	61
長崎 孝…………… 遺稿 邂逅……………	62
中島 脩……………高杉晋作ノート 晋作の萩脱出(6)……………	63
永田 稔衛……………耐 暑……………	64
夏目 康文……………わが友・雄才……………	65
難波 紘二……………飯島先生(その六)……………	66
新川 貞之……………広島市名誉市民 原田東岷先生……………	67
新本 稔……………男子厨房に入ろう……………	68
西村 哲郎……………建設コンサルタントに従事して思うこと(その五)……………	69
新田 和雄……………ある男・九十七歳……………	70
長谷川是求……………乃木大将からの手紙……………	71



- 花井 隆爾……茶の湯釜の取扱い……………72
- 原田 佳子……ふるさと「帰りなん、いざ」……………73
- 檜垣 昭光……幻想の旅「一枚の写真」……………74
- 福田 康彦……旅の恥かき……………75
- 前田 和美……スマートフォン……………76
- 正木 嗣鵬……中国渡来人の書(14) 黄檗の書 独立(2)……………77
- 舛井 寛一……八十八やそはちからの伝言……………78
- 松村 誠……「マラソンシーズンに想う」……………79
- 松本 洋二……思い違い……………80
- 丸子ようこ……感情の「カ行」……………81
- 三上寿磨子……脈々と続く日本人のよさ……………82
- 務中 昌己……「元氣」とは何か……………83
- 森田 繁昌……認知症の疑いあり……………84
- 山口 隆子……真夏の小さな贈り物……………85
- 山本 修……新説 邪馬台国の歴史……………86
- 山本 光珠……筆供養……………87
- 行年 和正……私の郷土民俗資料館……………88
- 横山 邦治……大連流連足掛け十年(八)……………89
- 吉村 淳……昭和二十年・朝鮮の夏……………90
- 渡辺 玲子……コロンビア大氷河……………91
- 有田 博司……クロの嘆き……………92



表紙

河本 尚子（かわもと なおこ） 145 cm × 112 cm

釜山女子大・英語科を卒業後すぐに貿易会社の役員秘書として実社会入りするも、祖父が画家であったことから絵心が何時とはなしに動き、油彩画に触れる。会社勤めだと落ち着いて絵筆はふれないので貿易会社を退社し、画塾に通って基礎から正式にはじめる。創作感覚を磨くため、平行してピアノのレッスンを受ける。両者にはともに通じるところがあり、自分を表現する喜び、努力が報いられる達成感、観る人（聴く人）に感動を与える、という目に見えない大きな力があることに気づく。二〇〇一年、亜細亜美術大展、釜山絵画祭に出品し入選「午後の休憩」〔秋の情景〕する。平成一三年三月より広島ペンクラブの会員となる。

午後の休憩

上田由美子……………海からの声……………	93
梶 杏子……………省略ことば……………	94
佐藤伊佐雄……………宇品線と陸軍棧橋……………	95
大下 徳也……………近況報告……………	96
次号原稿の案内……………	97
編集人記……………	98
広島ペンクラブ規約……………	99
表紙の言葉……………	106